



自己教育力を育むサッカー授業の工夫：
自ら考え意欲的に取り組む楽しさを味わう体育授業
づくり

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学僻地教育研究施設 公開日: 2010-04-11 キーワード: 作成者: 三浦, 裕, 田畑, 直, 松田, 淳, 小林, 禎三, 片岡, 繁雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00009720

自己教育力を育むサッカー授業の工夫

～自ら考え意欲的に取り組む楽しさを味わう体育授業づくり～

三 浦 裕 (北海道教育大学教育学部旭川校保健体育科教育)
 田 畑 直 (北海道教育大学教育学部旭川校保健体育科教育学研究室)
 松 田 淳 (旭川市立雨紛中学校)
 小 林 禎 三 (北海道教育大学教育学部旭川校保健体育)
 片 岡 繁 雄 (北海道教育大学教育学部旭川校生活健康)

How To Encourage Positive Soccer Learning

— For The Self-designing And Joyful Physical Education Lessons —

Yutaka MIURA

Hokkaido University of Education, Asahikawa,
Teaching Methods of Physical Education

Sunao TABATA

Hokkaido University of Education, Asahikawa,
Teaching Methods of Physical Education Laboratory

Jun MATSUDA

Ubun Junior High Scholl, Asahikawa

Teizo KOBAYASHI

Hokkaido University of Education, Asahikawa, Physical Education

Shigeo KATAOKA

Hokkaido University of Education, Asahikawa, Life Long Education

はじめに

小規模校における体育授業では、生徒数などの関係から、集団的なスポーツを取り上げることが難しい場合がある。サッカー授業もその一例であり、正規のルールからすればゲームでは最低22人が必要となる。このため、サッカーを導入していない学校もあり、実態は一様ではない。当然のことながら、「必ずサッカーを実施しなければならない」ということはないが、しかし、小規模校では本当に無理があるのではあるだろうか？ 筆者らは、これまでも新しい学力観に基づいた小規模校における学習指導計画の工夫や改善および実際の授業を実施し、その成果について報告を行ってきた。

このため本稿においては、自己教育力を育む体育授業の工夫のひとつとして、自ら考え意欲的に取り組む楽しさを味わうサッカーの授業づくりを目的として、小規模校の実態や特徴を生かした学習指導計画を作成し実施す

るとともに、その結果について報告を行うものである。

1 研究の目的

以上の状況を踏まえ、本研究では小規模校における体育授業の一層の充実・発展を目的として、自己教育力の育成をねらいとした学習指導計画を作成・実施するとともに、その成果と課題について検討を加えることにより、自ら考え実践する楽しさや喜びを学習するサッカー授業の工夫について研究を行うものである。

2 研究の方法および手順

本研究は、研究協力校である小規模校の実態と新しい学力観との効果的な関連性を探る仮説-立証型の実践研究である。

仮説・・・学習指導を工夫することにより、小規模校

の実態を生かした自己教育力の育成を図るサッカーの授業づくりを行うことができる

この検証を行うために、研究全体では次の手順を採っているが、紙幅の関係上本稿では全文を掲載することができないため、以下の本論では手順に基づきながら、それらの概要について報告を行うこととする。

- ①第一次学習指導計画の作成・検討（略）
- ②研究協力校の実態・自己教育力およびサッカー授業についての整理・検討
- ③事前調査
- ④第二次学習指導計画の作成・実施
- ⑤④のまとめ
- ⑥事後調査
- ⑦問題点の工夫・改善
- ⑧第三次学習指導計画の作成

3 研究の対象と期間

研究協力校は旭川市立雨紛中学校（以下本校と略）であり、対象とされた授業は1～3学年の保健体育授業のうち、平成9年8月26日～同9月24日に実施されたサッカー授業であり、合計11時間である。生徒については後述する。

4 本校の概要

1) 校下の概況と本校の実態

(1) 校下の概況

雨紛地区は明治25年の入植以来、上川水稻発祥の地として現在も雨紛米の名が残るほど広く知られている。この地区は主に稲作を中心として発展してきたが、昭和30年には旭川市と合併するなど、現在では百余りの農家を柱として、旭川近郊の総合型農業地域として発展してきている。生徒の家庭の多くは農業を営んでいるが、近年では経済摩擦の影響を受け農業改革を迫られているため、雨紛地区においても米作中心から、ビニールハウスでの野菜・花卉栽培へと転換したり、兼業農家や離農者が増加したりするなど、少しずつ変化してきている。また、近年では雨紛3号に環状線が開通し、ゴルフ場や競馬場への道として交通量が増加してきている。

(2) 本校の実態

本校（重山恵校長、3学級、以下本校と略す）は、旭川市の南西部に位置し、旭川駅よりの道のりは約7kmである。現在の通学区は、雨紛（3区）・上雨紛（4区）・神華（3区）・共栄（10区）の合計20区であり、最長通学距離は約6.5kmである。学年および組織成は各学年1

組の構成であり、生徒数は表1のとおりである。教員は保健体育担当として松田淳教諭、また授業は担当してはいないが同じく保健体育専攻の林政和教頭ほか、合計10名である。

表1 生徒数

		(名)		
	男子	女子	合計	
1年	3	4	7	
2年	2	2	4	
3年	3	3	6	
合計	8	9	17	

本校生徒は全員が進学を希望しており、教育に対する父母の関心は高く、また学校にも協力的である。生徒は明るく素直で、優しさの中に礼儀正しさを身につけており、学習や部活動で目標に向かって真剣に努力する生徒が多い。教科外の作業や奉仕活動などにも喜んで取り組むものの、若干積極性に欠ける面が見られる。また、地域的な要素により、幼少の頃から子どもたち同士での上下関係ができており、兄弟のような仲のよいほほ笑ましい人間関係にもあるが、反面でははじめやしまりのなさが見受けられる。

2) 本校における男女共習授業

生徒および学習内容の実態から、本校においては小規模校の特徴を生かし、従来より男女共習の体育授業を実施し、成果をあげている。今回対象とされたサッカー授業も同様であり、生徒は男女とも戸惑いをもたずスムーズに授業に取り組んでいる。しかし、細かくみていると以下のような問題点を指摘することができる。

- ・サッカーに対する男女の運動経験や体力・興味・関心などの相違により、女子はあまり積極的に取り組んではない。このため、男子にも自分勝手な行動がみられるときがある。
- ・女子の技能程度が男子よりも低いため、ゲームになると男子が女子にパスを出すことが少なくなり、女子の活躍する場面が減少する。

3) 本校における異学年合同体育授業

本校においては、前述の男女共習授業と同様の理由により、異学年合同で実施する全校体育授業を取り入れている。生徒のこれまでの人間関係から、異学年合同について特に違和感はなく、全校生徒が心身ともに一体となった円滑な授業を展開している。今回対象とされたサッ

カー授業では、前半を単学年による学年体育、後半を全校で取り組む全校体育で構成している。

しかし、異学年合同の全校体育は単学年で実施する学年体育と比較すると、次のような点での工夫が必要である。

- ・学年差および男女差
- ・学年体育から全校体育へと移行する目的および方法と内容

5 自己教育力について

1) 新しい学力観における自己教育力

これまでの体育では、どちらかと言えば教師主導型の体育授業が展開されてきた。しかし、世界や社会が急速に変化し、物事に対する人々の価値観が多様化していくことにより、教育にもまた自己改革が求められているのも事実である。このような状況を受け、教育課程審議会は昭和62年に次の答申を示している¹⁾。

- ①豊かなこころをもち、たくましく生きる人間の育成を図ること
- ②国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図ること
- ③自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること
- ④国際理解を深め、わが国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること

以上の4点は、新しい学力観の方針として知られており、自己教育力はその中でも特に③との関連が深い。

2) 学習指導要領における自己教育力

学習指導要領の改訂にともない、平成元年には『中学校指導書保健体育編²⁾』が示された。この指導書の第1章の2「改訂の基本方針」において、「自己教育力の育成」として「社会の変化に主体的に対応できる能力の育成や創造性の基礎を培うことを重視するとともに自ら学ぶ意欲を高めるようにすること」が挙げられている。

つまり、「社会の変化に主体的に対応するために自ら学ぶ能力」を「自己教育力」としてとらえることができる。このことにともない、「自己教育力」を身につけるための「思考・判断・表現」などの能力や創造性の基礎となる「論理的思考力」や「直観的能力」の育成も重視している。

しかし、現実的な問題として、日常の身の回りのすべての物事に対して「自己教育力」を発揮することは時間的にもまた内容的にも難しさが残ることは言うまでもないことである。しかも、何よりも重要なことは、誰もが当初より、社会が期待している「自己教育力」というものを身につけている訳ではもちろんないということである。

ある。

したがって、「自己教育力」を身につけるためには、まずそのきっかけとして、学ぶことの楽しさや喜びを子どもたち自身で実感することが大切であり、また自ら主体的に学ぶための目標の設定やその方法・内容などに関する学習のしかたについての力を身につけることが必要となってくる。

3) 新しい学力観に基づく観点別学習

一般に言われている評価の4観点とは、『指導要録³⁾』に示されている次の評価項目を指している。

- ①関心・意欲・態度
- ②思考・判断
- ③技能・表現
- ④知識・理解

これらのうち、②は平成元年改訂の現行の指導要領に盛り込まれた新しい学力観に基づいて付け加えられた項目である。これらの各項目は、よりよい学習を推し進めるために、相互に関連し合うことが当然のことながら必要とされる。とともに、「自己教育力」を育成する観点からは、2)において述べたように、特に①関心・意欲・態度と、②思考・判断が重視される。

6 サッカー授業について

1) スポーツとしてのサッカー

サッカーの起源としては、古代ローマ人が「ハルバストウム」と呼んでいたことやギリシャ人が「フォリス」という名前で楽しんでいたことなどが伝えられているが、詳細は不明である。しかし、イギリスではこの発端を1042年としている。その理由は、戦地に放置されていたデンマーク人の頭蓋骨を蹴って憂さばらしをしたのが、フットボールの始まりだという伝説によるものである。その後、ヘンリー二世のフットボール禁止期間を過ぎ、1863年には「フットボール・アソシエーション」が設立されている。日本におけるサッカーは、1874(明治6)年にR.ジョーンズが紹介したのが始まりとされているが、本格的に普及しだしたのは1903(明治35)年を過ぎてからであった。

近年では、マンガの影響やクラブチームの誕生、スポーツ番組の充実などにより、サッカーは全国的に広まり、愛好する人が増えてきている。しかし一方では、クラブ維持のための財政難や高額な契約金などの問題も表出してきた。

2) 生徒からみたサッカー

多くの生徒がサッカーに対して好意的な印象をもって

いるが、1～3年まで男女共習で行う全校体育では技能程度の個人差が大きくなるため、強く蹴られたボールから逃げる生徒も見られる。

男子では日頃から遊びとしてサッカーをしている子もいるが、それらはシュートゲームやミニゲームが中心であるため、チームプレーや戦術などについてはあまり考えられていない。このため、サッカーに対しての興味・関心には男女差が、また技能や思考・判断には個人差がみられる。

3) 学習内容としてのサッカー

サッカーは、ボールを媒介として、味方同士で協力し、広いコートや隅々まで動きながら、長時間相手とゴールを競い合うボールゲームである。

ゴールキーパー以外は主に足を使ってプレーをするため、ボールのコントロールが難しく、個人技能を集団技能に結びつけづらい。このため、基礎的な個人技能を身につけることはもちろんのことであるが、協力する態度や場面に応じた的確な判断そして精神的な集中力、またゲームの状況に応じた適切な作戦や戦術の工夫、持久的な体力などが要求される。

7 事前調査について

第一次よりも有用でかつ適切な第二次学習指導計画の作成を目的として、生徒のサッカー学習に対する意識の実態を把握するための事前調査を行った。ここでは紙幅の関係上、調査項目の構成・内容と主な集計結果について述べることにする。調査対象は表1に示すとおりであり、調査期間は平成9年8月である。調査用紙は割愛。

1) 調査項目の構成と内容

調査の直接の目的は、生徒のサッカーに対する意識の実態を探ることであるため、次の①～③までの3項目を柱として構成した。なお、事前調査では「思考・判断」に関する設問の設定が難しいため、これらに関する設問は設けてはいない。

①関心・意欲・態度

サッカーに対する興味や関心を探るため、「好嫌度」、「楽しさの理由」、「経験」、「ボール所有の有無」、「テレビ視聴」の5項目の設問内容から構成されている。

②技能

今もっている技能の程度を把握するため、自己評価形式で回答できるよう「得意な技術」、「不得意な技術」の2項目の設問から構成されている。

③知識・理解

これらの設問内容は「ルール」、「キックの種類」、「ポジション」の3項目から構成されている。

④その他

その他は全体的な状況を把握するため、「小学校でのサッカー経験」と「昨年の授業で学習したこと（2年生以上）」の2設問を設けた。

2) 調査結果の概要

ここでは、得られた結果のうち、第三次学習指導計画の作成に特に関連があると思われる項目について述べる。

(1) サッカーの好嫌度

表2は、サッカーに対する好き・嫌いの程度を5段階で回答したものをまとめたものである。

その結果を全体で見ると、「嫌い」・「とても嫌い」の項目に回答はなかった。「普通」は男子2名、女子5名となっており、女子の方の回答が多かった。「好き」・「とても好き」を合計すると、男子は6名、女子は4名の合計10名であり、半数以上の生徒がサッカーに対して好意的であることが分かった。

また学年別にみても、1年生男子は「とても好き」と「好き」の項目を合計すると2名(66.6%)を占めるのに対して、1年生女子では「普通」が4名(100.0%)となっていた。この理由としてはいくつかのことが考えられるが、母集団の数が少ないため、詳細な言及は控える。

(2) サッカーの楽しさ(複数回答)

表3は、サッカーの楽しさについてまとめたものである。

最も回答が多かったのは、やはり「シュート」であり、男子7名、女子8名の合計15名となっており、過半数以上の生徒がこの項目に回答していたことが分かる。続いて「試合」、「ドリブル」、「パス」の順となっている。「その他」の内容の詳細については分からなかった。

(3) テレビ視聴

テレビでサッカー番組を視聴する程度についてまとめたのが、表4である。最も多かった回答は「見ない」であり、男子5名、女子4名の合計9名となり、過半数を占めた。この項目に「ほとんど見ない」を加えると合計13名(72.2%)となり、ほとんどの生徒がテレビではサッカー番組をあまり見ていないことが分かった。また、「よく見る」の項目に回答はなく、「たまに見る」は4名(23.5%)であった。

(4) ルールの数

表5は、知っているサッカーのルールの数についてまとめたものである。ただし、これらの知識はテレビなど、学校以外での習得も考えられるため、「興味・関心」との関わりがあるものと考えられる。

その結果で最も回答が多かった項目は、「1～3」の

表2 サッカーの好嫌度

名 %
%

		とても好き		好き		普通		嫌い		とても嫌い		合計	
1年生	男子	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		100.0		100.0		20.0		0.0		0.0		42.9	
	女子	0	0.0	0	0.0	4	100.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0
		0.0		0.0		80.0		0.0		0.0		57.1	
	小計	1	14.3	1	14.3	5	71.4	0	0.0	0	0.0	7	100.0
		100.0		100.0		100.0		0.0		0.0		100.0	
2年生	男子	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
		0.0		50.0		50.0		0.0		0.0		50.0	
	女子	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
		0.0		50.0		50.0		0.0		0.0		50.0	
	小計	0	0.0	2	50.0	2	50.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0
		0.0		100.0		100.0		0.0		0.0		100.0	
3年生	男子	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		50.0		50.0		0.0		0.0		0.0		50.0	
	女子	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		50.0		50.0		0.0		0.0		0.0		50.0	
	小計	4	66.7	2	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	100.0
		100.0		100.0		0.0		0.0		0.0		100.0	
合計	男子	3	37.5	3	37.5	2	25.0	0	0.0	0	0.0	8	100.0
		60.0		60.0		28.6		0.0		0.0		47.1	
	女子	2	22.2	2	22.2	5	55.6	0	0.0	0	0.0	9	100.0
		40.0		40.0		71.4		0.0		0.0		52.9	
	総計	5	29.4	5	29.4	7	41.2	0	0.0	0	0.0	17	100.0
		100.0		100.0		100.0		0.0		0.0		100.0	

表3 サッカーの楽しさ (複数解答)

名 %
%

		シュート		ドリブル		パス		試合		その他		合計	
1年生	男子	2	28.6	1	14.3	1	14.3	1	14.3	2	28.6	7	100.0
		33.3		100.0		100.0		100.0		100.0		63.6	
	女子	4	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0
		66.7		0.0		0.0		0.0		0.0		36.4	
	小計	6	54.5	1	9.1	1	9.1	1	9.1	2	18.2	11	100.0
		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
2年生	男子	2	66.7	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	3	100.0
		66.7		0.0		0.0		100.0		0.0		50.0	
	女子	1	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0	1	33.3	3	100.0
		33.3		0.0		100.0		0.0		1.0		50.0	
	小計	3	50.0	0	0.0	1	16.7	1	16.7	1	16.7	6	100.0
		100.0		0.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
3年生	男子	3	50.0	1	16.7	0	0.0	0	0.0	2	33.3	6	100.0
		50.0		100.0		0.0		0.0		66.7		54.5	
	女子	3	60.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0	1	20.0	5	100.0
		50.0		0.0		0.0		100.0		33.3		45.5	
	小計	6	54.5	1	9.1	0	0.0	1	9.1	3	27.3	11	100.0
		100.0		100.0		0.0		100.0		100.0		100.0	
合計	男子	7	43.8	2	12.5	1	6.3	2	12.5	4	25.0	16	100.0
		46.7		100.0		50.0		66.7		66.7		57.1	
	女子	8	66.7	0	0.0	1	8.3	1	8.3	2	16.7	12	100.0
		53.3		0.0		50.0		33.3		33.3		42.9	
	総計	15	53.6	2	7.1	2	7.1	3	10.7	6	21.4	28	100.0
		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	

表4 テレビ視聴

名%
%

		よく見る		たまに見る		ほとんど見ない		見ない		合計	
1年生	男子	0	0.0	1	33.3	0	0.0	2	66.7	3	100.0
		0.0		100.0		0.0		50.0		42.9	
	女子	0	0.0	0	0.0	2	50.0	2	50.0	4	100.0
		0.0		0.0		100.0		50.0		57.1	
	小計	0	0.0	1	14.3	2	28.6	4	57.1	7	100.0
		0.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
2年生	男子	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0	2	100.0
		0.0		0.0		0.0		66.7		50.0	
	女子	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	2	100.0
		0.0		100.0		0.0		33.3		50.0	
	小計	0	0.0	1	25.0	0	0.0	3	75.0	4	100.0
		0.0		100.0		0.0		100.0		100.0	
3年生	男子	0	0.0	2	66.7	0	0.0	1	33.3	3	100.0
		0.0		100.0		0.0		50.0		50.0	
	女子	0	0.0	0	0.0	2	66.7	1	33.3	3	100.0
		0.0		0.0		100.0		50.0		50.0	
	小計	0	0.0	2	33.3	2	33.3	2	33.3	6	100.0
		0.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
合計	男子	0	0.0	3	37.5	0	0.0	5	62.5	8	100.0
		0.0		75.0		0.0		55.6		47.1	
	女子	0	0.0	1	11.1	4	44.4	4	44.4	9	100.0
		0.0		25.0		100.0		44.4		52.9	
	総計	0	0.0	4	23.5	4	23.5	9	52.9	17	100.0
		0.0		100.0		100.0		100.0		100.0	

表5 ルール数

名%
%

		0		1~3		4~6		7~9		10~		合計	
1年生	男子	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		0.0		33.3		100.0		0.0		0.0		42.9	
	女子	0	0.0	4	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0
		0.0		66.7		0.0		0.0		0.0		57.1	
	小計	0	0.0	6	85.7	1	14.3	0	0.0	0	0.0	7	100.0
		0.0		100.0		100.0		0.0		0.0		100.0	
2年生	男子	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
		100.0		0.0		100.0		0.0		0.0		50.0	
	女子	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
		0.0		100.0		0.0		0.0		0.0		50.0	
	小計	1	25.0	2	50.0	1	25.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0
		100.0		100.0		100.0		0.0		0.0		100.0	
3年生	男子	0	0.0	0	0.0	1	33.3	1	33.3	1	33.3	3	100.0
		0.0		0.0		50.0		100.0		100.0		50.0	
	女子	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		0.0		100.0		50.0		0.0		0.0		50.0	
	小計	0	0.0	2	33.3	2	33.3	1	16.7	1	16.7	6	100.0
		0.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
合計	男子	1	12.5	2	25.0	3	37.5	1	12.5	1	12.5	8	100.0
		100.0		20.0		75.0		100.0		100.0		47.1	
	女子	0	0.0	8	88.9	1	11.1	0	0.0	0	0.0	9	100.0
		0.0		80.0		25.0		0.0		0.0		52.9	
	総計	1	5.9	10	58.8	4	23.5	1	5.9	1	5.9	17	100.0
		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	

合計10名(58.8%)であったが、「0」の回答も1名(5.9%)あった。前述の(3)の結果およびこの結果から、本校の生徒はサッカーに対してあまり興味や関心をもっていないと推察される。

男女別にみても、男子では回答にばらつきがみられるものの、女子では9割近くが「1～2」の項目に回答していた。

8 第二次学習指導計画の作成

第一次学習指導計画案の検討後、問題点の改善を行い、以下の第二次学習指導計画案(全体の指導計画)を作成・実施した。なお、紙幅の関係で各時の細案は省略した。

9 第二次学習指導計画の成果および問題点

1) 1時間目/11時間

この時間の目標は、「これまでの経験を振り返り、単元や授業のながれを確認し、自主的に取り組む」と「ゲームを通してサッカーの楽しさを感じ取り、進んでサッカーに取り組む」である。

生徒たちが自ら考えた運動を行うことは、生徒自身が運動のしかたの要領も分かるとともに、自分の考えた運動に自信をもつことでもある。後半のミニゲームでは、全員が汗をかくほど走り回っていた。少人数での体育授業では比較的運動量が多くなりがちなので、カードに記入する時間などの「考える時間」と実際にサッカーをする「運動する時間」とのバランスを適切に確保することが重要である。

2) 2時間目/11時間

本時は生徒が考えた練習を2種類行って、後半にはその練習を生かしたミニゲームを行う時間である。目標は「練習内容を理解し、自主的に練習に取り組み、自分で工夫しながら練習する」と「練習の意義を考え理解し、工夫することに興味をもつ」である。1年生は経験や知識が少ないものの、他学年と比べると積極的な生徒が多く、知っている知識をすべて出そうとする態度が見られた。

しかし、その練習は何のための練習なのか、あるいはどのように生かしていくのかなどの見通しや道筋がなければ、まとまりのない、その場限りの運動になってしまう恐れがある。また、学習カードの自己評価欄記入時には、イメージだけによる印象の記入ではなく、学習のねらいや目標を振り返りながら、自分の学習活動がどうであったのかなどについて、1時間の授業をまとめることが大切である。

3) 3・4時間目/11時間

3時間目と4時間目は、「与えられた課題をもとに練習を考え、実践する」時間である。目標は「自ら考えることの楽しさを味わう」であった。当日は雨天であったため、場所を屋内体育館に変更して授業を行った。

しかし、授業中生徒は課題を与えられることに戸惑いを感じ、なかなか課題解決に取り組むことができなかった。これは生徒自身が初めて課題を設定する時間であったのにも拘らず、ここに至るまでの学習の準備が不十分であったため、生徒がどのようにしてよいか分からなかったことに起因するものと考えられる。また、屋内体育館での授業であったが、グラウンドと同じ感覚で思いっきりボールをキックする生徒もいたため、危険な場面が見られた。

したがって、課題を与える際には、目標・目的に応じた課題を精選し、生徒の実態とその課題の難易度を考慮しながら、自主的に学習活動に取り組むことができるよう配慮しなければならない。また、通常は屋外で行なわれる運動を室内で行う場合には、ルールやきまりなどをつくって、安全意識を高めるとともに、未然に事故やケガを防ぐ指導が必要である。

4) 5時間目/11時間

本時の目標は「練習やミニゲームを振り返り、自分の課題を見つける」と「自分の考えた課題に応じて練習する」の2つである。

これを受け、2年生の授業では「パスをつなぐ」が課題として設定されたが、3対2であっても2対2であっても、パスがうまくつながらない時には、どうしてもドリブルをしてボールを運びがちになる。その結果、パスをつなごうとする意識が薄れ、パスの技能練習がおろそかになる恐れがある。案の定、ゲームでもドリブル主体の展開になってしまった。

このような状況に陥らないためには、シミュレーション練習やパターン練習などを取り入れる方法もあるが、少人数の場合には一層の工夫が必要であろう。

5) 6時間目/11時間

単元の中ほどの本時から、授業のねらいは「自ら課題を設定し、実践する」段階となり、全校体育で取り組む第1回目の授業である。具体的な目標は、「授業のながれを理解し、自主的に授業に取り組む態度を身につける」と「試しのゲームを振り返りながら、一人ひとりがチームの課題を設定し、課題に応じた練習を考える」である。

簡単なオリエンテーションの後、できるだけ双方のチームが同等の力をもつチームメンバーによって構成されるようにチーム編成を行った。また、チームごとに話

保健体育科（体育分野）学習指導案

期 間	平成9年8月26日～9月24日
生 徒	1年 男子3名 女子4名 合計7名 2年 男子2名 女子2名 合計4名 3年 男子3名 女子3名 合計6名 男子合計8名 女子合計9名 総計17名
場 所	グラウンド（雨天時：体育館）
授業者	田 畑 直

1 題材名 「サッカー」

2 題材について

1) 題材観

(1) 一般的特性

サッカーは広いコートで2チーム（1チーム11人）が入り交じってボールを奪い合い、味方同士が協力して攻防を繰り返す。規定の時間内で相手と得点を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる集団的スポーツである。ゴールキーパー以外は主に足でプレーするが、ボールのコントロールが難しく、はじめのうちは個人技能を集団的技能に結びつけづらいが、練習を重ねていくことでコンビプレーやチームプレーの面白さや楽しさを味わえるチームスポーツである。

また、全員が一つの目標に向かって自己の役割をはたす協力の精神や、勝敗に対する公正な態度を養うことができるとともに、安全に留意する習慣を身につけることができる。

(2) 生徒からみた特性

最近ではJリーグのテレビ中継の影響などにより、サッカーについて面白い・楽しいなどの興味を示す生徒が多く見られる。一方、技能程度の個人差が大きく、ボールから逃げる生徒も見られる。日頃の遊びの中では、シュートをして遊んだり、小さなコートでミニゲームをして得点することを楽しんだりしているが、チームプレーや戦術についてはあまり考えていない。

2) 生徒の実態

日常の動作ではあまり行うことのない「蹴る」という動作を楽しむことができるため、マンガにあるようにドリブルをして相手を抜いていこうとする動きも見られる。ゲームでは一つのボールに駆け寄り奪い合う場面が見られ、ボールに対しての積極的な関わり合いが身についているようである。しかし、ダンゴ状に群れるのはゲームレベルの初歩的な段階であり、状況判断が不十分であることも表している。また、男女の技能程度に差があるため、比較的女子はボールから離れて見ていることが多い。

3) 指導観

集団における協力の大切さを実感することが、子どもたちにとって必要な生きる力の基礎・基本であると考え、サッカーを通して自ら考えること（創造）の楽しさを味わいながら、自己教育力を育成する。また、正確なボールコントロールを重視するため、ボールを止める原理や跳ばず原理などについての理解をうながす。運動能力や技能レベルには男女差や学年の差がみられるため、個に応じた指導（支援・援助）を工夫する。

3 目 標

- 1) 自ら考えた遊びやゲームを通してサッカーの楽しさを感じ取り、男女が共に進んでサッカーに取り組む態度を身につける
- 2) 自ら課題を見つけ、課題解決に向けて過去の経験や自らの活動により、必要な練習内容や方法を考え、工夫して練習する
- 3) 自ら考えた遊びやゲームを通して、楽しみながら個人技能や集団的技能を身につける
- 4) 接触プレーやゴールなどに気をつけ、安全を確認し合って、健康や安全に留意する

図1

し合いでチーム名を決めたり、チームの目標を考えたりすることによって、集団内での協力的な高めるための下準備を行った。その後、新チームで初めてのゲームとなる「試しのゲーム」を行い、終了後にチームの課題について話し合う時間を設定した。

その結果、T.R.F.チームは「マークを徹底すること」、Andy'sチームは「全員で攻撃し、全員で守る」を反省点として挙げ、また両チームとも「女子がより多くシュー

トすること」を課題として設定していた。この時間はゲームが中心であったためか、授業のながれは理解されていたし、ゲームにも積極的に参加することによって、チームごとの課題も設定された。また、2チームともキャプテンを中心にまとまっていた。

これまで行ってきた学年単位の体育授業は少人数で構成されていたため、生徒も学習活動を振り返りやすく、また指導者が授業中に学習カードの内容を把握すること

4 全体の指導計画

全体の指導計画は、学年体育が各学年5時間、全校体育6が時間の合計11時間から構成されている。なお、11時間目は体育授業ではなく生徒会の企画・運営による学校行事であるが、授業との関わりを考慮し、記載している。

1) 学習の内容

- (1) 課題をもたずに練習を考え、実践する (1~3時間目)
- (2) 与えられた課題から練習を考え、実践する (4~5時間目)
- (3) 自ら課題を設定し、練習を考え実践する (6~8時間目)
- (4) 協力して課題を設定し、練習を考え実践する (9~10時間目)

生徒会によるサッカー大会 (11時間目)

2) 学習のながれ

時数・形態		分				
		10	20	30	40	50
事前		サッカー授業についての事前調査 (観点別)				
1	学年体育	オリエンテーション	生徒が考えた練習①	試しのミニゲーム		反省・次時の課題把握
2	〃	生徒が考えた練習② (準備運動)	生徒が考えた練習② (技能練習)	練習を生かしたミニゲーム		
3	〃					
4	〃	生徒が考えた練習③ (準備運動)	生徒が考えた練習③ (技能練習)			
5	〃					
6	全校体育	オリエンテーション	試しのゲーム			
7	〃	チームで考えた練習① (準備運動)	チームで考えた練習① (技能練習)	練習を生かしたゲーム		
8	〃					
9	〃	チーム練習 (準備運動)	ゲーム (前半)	チーム練習② (技能練習)	ゲーム (後半)	
10	〃					
11	〃	まとめのゲーム (サッカー大会：生徒会企画・全校行事)				
事後		サッカー授業についての事後調査 (観点別)				

5 評価

- 1) 自ら考えた遊びやゲームを通してサッカーの楽しさを感じ取り、主体的にサッカーに取り組む態度を身につけたか
- 2) 自ら課題を見つけ、課題解決に向けて過去の運動経験を生かしたり、必要な練習内容や方法を考えたか、工夫したか
- 3) 自ら考えた遊びやゲームを楽しみながら、個人技能や集団的技能を身につけたか
- 4) 接触プレーなどに気をつけ、安全を確認し合い、健康や安全に留意して取り組めたか

図 2

ができたが、本時のように全校体育となると全員になかなか目が行き届かなくなった。15名という人数でもこのように感じることは、小規模校の贅沢な悩みであろうか。

6) 7・8時間目/11時間

本時の目標は、「練習を確認・理解し、工夫して取り組むことができる」と「練習成果をゲームに生かす」である。

本時においても生徒は楽しくゲームに取り組んでいたが、次第に学年差や男女差が見られるようになってきた。つまり、全校体育は1年から3年までの男女生徒全員で行なわれるため、どうしても体力や技能の差が学年体育

よりも大きく表出してしまうことになる。このため、女子へのパスが減ったり、ボールに1回も触れることができない女子も出現することになってしまった。また、チームでの話し合いに参加できない生徒も見られた。学習カードに記入された内容については、本時の目標である「練習を理解すること」と「その成果をゲームに生かす」ことがうまくつながっていない生徒もみられた。

これらの問題点の改善については、さまざまな方法が考えられる。しかし、小規模校の体育授業であるということ、また題材がサッカーであるという点に加えて、自己教育力を育成するということに主たるねらいを置いて

いるのであれば、表面的にだけ学年差や男女差を是正するよりは、むしろ生徒一人ひとりの個性を生かすことによって、それがチーム全体の力となるようにとらえる指導の方が、よりねらいに沿った学習内容とその取り組みになるものと考えられる。

学習カードについては、導入部分における本時の目標についての説明を分かりやすく工夫するとともに、記入欄にも改善を加え、つながりや発展を意識づけやすくできるように配慮することが必要である。

7) 9・10時間目/11時間

本時の授業のねらいは「協力して課題を設定し、練習を考え、実践する」ことであり、具体的な目標は「練習を生かし、ゲームに役立てる」と「反省を生かし、チームで話し合いながら課題を考え、まとめのゲームの目標を決める」である。

T.R.F.チームは話し合いが十分ではなかったため、チームで考えた練習にうまく取り組むことができなかった。このため、ゲームでは元気がなく、また走り回ることもなく、結果的に惨敗してしまった。また終盤におけるチームでの話し合いに入っていけない1・2年生の女子が見られた。これは、学年が下であることや知識をあまりもっていないこと、さらにゲームで負けてしまったことなどによるものと思われる。

したがって、チームでの話し合いが内容的にもスムーズに展開できるよう、指導者はその話し合いに気を配ったり、女子や低学年を支援したりするなど、全員が積極的に話し合いに参加し、より適切な練習課題や目標を考えさせるよう、指導を工夫する必要がある。また、学習カードについては、全校体育となってからも個人の自己評価の項目をそのまま流用していたため、集団的な内容に関する項目が不足し、生徒は集団的な問題をとらえづらかったものと思われる。このため、設問項目の改善を図る必要がある。

10 事後調査

1) 事後調査の概要

第三次学習指導計画の作成にむけて、本単元をまとめるにあたり、生徒の変容を把握するため、以下の事後調査を実施した。調査対象は、事前調査と同様に表1に示すとおりである。調査期間は、平成9年9月である。調査項目の内容は事前調査のそれを踏襲しているため詳しい説明は省略するが、最後に「自分たちが考えた練習を行う授業の感想」欄を設けている。調査用紙は割愛。

2) 調査結果の概要

ここでは、事前調査で取り上げた項目に対応する調査

結果について述べる。

(1) 事後におけるサッカーの好嫌度

表6は、サッカー授業を終えてから、サッカーに対する好き・嫌いの程度を5段階評価で回答したものをまとめたものである。

全体的に見てみると、事前調査と同様に「嫌い」・「とても嫌い」の項目に回答はなかった。しかし、事後調査では「普通」は男子2名だけになり、「好き」・「とても好き」の割合が増加している。その中でも「とても好き」が合計で男子6名、女子3名とほぼ倍増していることが分かった。

この結果から、サッカー学習の後では、サッカーに対してより好意的になる傾向がみられた。学年別・男女別では、あまり大きな変化はみられなかった。

(2) 事後におけるサッカーの楽しさ(複数回答)

表7は、単元終了後に、サッカーの楽しさについて調査したものである。

回答数の合計は、事前調査と同様に28回答であり、総数は変化していなかった。大きな変化がみられたのは、「シュート」が15回答→11回答へと減少し、「パス」が2回答→5回答へと増加している点である。この傾向は、男女ともにみられた。

「パス」が増えた理由として、シュートするためには適切なパスが必要であること、またその大事なパスを出すことの面白さや喜びが、授業を通して生徒に理解されたことによるものであると考えられる。

そのほかの項目に、大きな変化はみられなかった。

(3) 事後のテレビ視聴

テレビでサッカー番組を視聴する程度についてまとめたのが、表8である。事前調査と比較してみると、「よく見る」項目は事前調査と同様に0であり、「たまに見る」が2名増えたの対して、「見ない」が2名減少している。

個人内変化をつけあわせていないため、誰がどのように変容したかは不明であるが、全体としてサッカー番組を視聴する回答数がわずかながら増えたことが分かった。そのほかの項目においては、大きな変化は見られなかった。

しかし、調査時点でのサッカー番組の放送数や時間帯、生徒のスケジュールや家庭環境など、テレビ視聴にはさまざまな要因が影響するので、この因果関係の詳細を明らかにすることは難しい。

(4) 事後のルール数

表9は、サッカー授業終了後に、知っているサッカーのルールの数についてまとめたものである。

事前調査と比較すると、「0」はなくなり、「4～6」が3名増加している。授業終了後において、最も回答数が多かった「1～2」程度のルールの数が妥当であるか

表6 サッカーの好嫌度 (事後)

名 %
%

		とても好き		好き		普通		嫌い		とても嫌い		合計	
1年生	男子	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		100.0		50.0		0.0		0.0		0.0		42.9	
	女子	0	0.0	2	50.0	2	50.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0
		0.0		50.0		100.0		0.0		0.0		57.1	
	小計	1	14.3	4	57.1	2	28.6	0	0.0	0	0.0	7	100.0
		100.0		100.0		100.0		0.0		0.0		100.0	
2年生	男子	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		50.0	
	女子	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
		0.0		100.0		0.0		0.0		0.0		50.0	
	小計	2	50.0	2	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0
		0.0		100.0		0.0		0.0		0.0		100.0	
3年生	男子	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		50.0		0.0		0.0		0.0		0.0		50.0	
	女子	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		50.0		0.0		0.0		0.0		0.0		50.0	
	小計	6	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	100.0
		100.0		0.0		0.0		0.0		0.0		100.0	
合計	男子	6	75.0	2	25.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	100.0
		66.7		33.3		0.0		0.0		0.0		47.1	
	女子	3	33.3	4	44.4	2	22.2	0	0.0	0	0.0	9	100.0
		33.3		66.7		100.0		0.0		0.0		52.9	
	総計	9	52.9	6	35.3	2	11.8	0	0.0	0	0.0	17	100.0
		100.0		100.0		100.0		0.0		0.0		100.0	

表7 サッカーの楽しさ (複数解答：事後)

名 %
%

		シュート		ドリブル		パス		試合		その他		合計	
1年生	男子	1	14.3	1	14.3	1	14.3	2	28.6	2	28.6	7	100.0
		20.0		50.0		50.0		66.7		100.0		50.0	
	女子	4	57.1	1	14.3	1	14.3	1	14.3	0	0.0	7	100.0
		80.0		50.0		50.0		33.3		0.0		50.0	
	小計	5	35.7	2	14.3	2	14.3	3	21.4	2	14.3	14	100.0
		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
2年生	男子	1	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0	1	33.3	3	100.0
		50.0		0.0		100.0		0.0		100.0		60.0	
	女子	1	50.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	2	100.0
		50.0		0.0		0.0		100.0		1.0		40.0	
	小計	2	40.0	0	0.0	1	20.0	1	20.0	1	20.0	5	100.0
		100.0		0.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
3年生	男子	2	50.0	0	0.0	1	25.0	0	0.0	1	25.0	4	100.0
		50.0		0.0		0.0		0.0		33.3		44.4	
	女子	2	40.0	0	0.0	1	20.0	0	0.0	2	40.0	5	100.0
		50.0		0.0		0.0		0.0		66.7		55.6	
	小計	4	44.4	0	0.0	2	22.2	0	0.0	3	33.3	9	100.0
		100.0		0.0		100.0		0.0		100.0		100.0	
合計	男子	4	28.6	1	7.1	3	21.4	2	14.3	4	28.6	14	100.0
		36.4		50.0		60.0		50.0		66.7		50.0	
	女子	7	50.0	1	7.1	2	14.3	2	14.3	2	14.3	14	100.0
		63.6		50.0		40.0		50.0		33.3		50.0	
	総計	11	39.3	2	7.1	5	17.9	4	14.3	6	21.4	28	100.0
		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	

表8 テレビ視聴 (事後)

名 %
%

		よく見る		たまに見る		ほとんど見ない		見ない		合計	
1年生	男子	0	0.0	1	33.3	2	66.7	0	0.0	3	100.0
		0.0		50.0		100.0		0.0		42.9	
	女子	0	0.0	1	25.0	0	0.0	3	75.0	4	100.0
		0.0		50.0		0.0		100.0		57.1	
	小計	0	0.0	2	28.6	2	28.6	3	42.9	7	100.0
		0.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
2年生	男子	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	2	100.0
		0.0		100.0		0.0		100.0		50.0	
	女子	0	0.0	0	0.0	2	100.0	0	0.0	2	100.0
		0.0		0.0		0.0		0.0		50.0	
	小計	0	0.0	1	25.0	2	50.0	1	25.0	4	100.0
		0.0		100.0		0.0		100.0		100.0	
3年生	男子	0	0.0	3	100.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		0.0		100.0		0.0		0.0		50.0	
	女子	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0	3	100.0
		0.0		0.0		0.0		100.0		50.0	
	小計	0	0.0	3	50.0	0	0.0	3	50.0	6	100.0
		0.0		100.0		0.0		100.0		100.0	
合計	男子	0	0.0	5	62.5	2	25.0	1	12.5	8	100.0
		0.0		83.3		50.0		14.3		47.1	
	女子	0	0.0	1	11.1	2	22.2	6	66.7	9	100.0
		0.0		16.7		50.0		85.7		52.9	
	総計	0	0.0	6	35.3	4	23.5	7	41.2	17	100.0
		0.0		100.0		100.0		100.0		100.0	

表9 ルールの数 (事後)

名 %
%

		0		1~3		4~6		7~9		10~		合計	
1年生	男子	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		0.0		33.3		100.0		0.0		0.0		42.9	
	女子	0	0.0	4	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0
		0.0		66.7		0.0		0.0		0.0		57.1	
	小計	0	0.0	6	85.7	1	14.3	0	0.0	0	0.0	7	100.0
		0.0		100.0		100.0		0.0		0.0		100.0	
2年生	男子	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
		0.0		50.0		50.0		0.0		0.0		50.0	
	女子	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
		0.0		50.0		50.0		0.0		0.0		50.0	
	小計	0	0.0	2	50.0	2	50.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0
		0.0		100.0		100.0		0.0		0.0		100.0	
3年生	男子	0	0.0	0	0.0	2	66.7	0	0.0	1	33.3	3	100.0
		0.0		0.0		50.0		0.0		100.0		50.0	
	女子	0	0.0	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	3	100.0
		0.0		100.0		50.0		0.0		0.0		50.0	
	小計	0	0.0	1	16.7	4	66.7	0	0.0	1	16.7	6	100.0
		0.0		100.0		100.0		0.0		100.0		100.0	
合計	男子	0	0.0	3	37.5	4	50.0	0	0.0	1	12.5	8	100.0
		0.0		33.3		57.1		0.0		100.0		47.1	
	女子	0	0.0	6	66.7	3	33.3	0	0.0	0	0.0	9	100.0
		0.0		66.7		42.9		0.0		0.0		52.9	
	総計	0	0.0	9	52.9	7	41.2	0	0.0	1	5.9	17	100.0
		0.0		100.0		100.0		0.0		100.0		100.0	

表10 自分で考えた練習の感想

		生徒の感想
1 年 生	男 子	できるものもあれば、むりなものもあった。もうちょっとくふうをくわえてほしい。
		おもしろ、おかしく、楽しくできたし、いろいろなことができるようになった。
		とてもよかった。アイデアがたくさんあった。ミニゲームが楽しかった。
	女 子	意外にもたくさんの練習があつまってできてよかったです。そして、楽しくできました。あとは、それがカンベキに出来ればいいと思います。
		みんな考えた練習はとてもやくにたったし、みんなで「どっちが早いかな？」とかやって、とても楽しかった。
		楽しかった。少しはやくにたっていた。先生とかにきめられた練習をするより、自分たちで考えて練習したほうが楽しくてよかったと思います。
	やったこともない練習をやって、楽しかった。たのしかったので、またやりたい。	
2 年 生	男 子	まあまあよかったと思います。大会ではおきは、みんなが考えてくれた練習があったからこそ大会ではすばらしい練習ができたと思います。
		たのしかった。そして、田畑先生の教え方がうまかった。
	女 子	自分で考えた練習ができ、苦手なところを少しでもなおすことができたような気がします。とても、おもしろかったです。
		うまくいったんじゃないかと思いました。たまにだめな時もあった。
3 年 生	男 子	なかなかのさくせんでよかった。これからもやるとよいでしょう。こうりつのよい練習だった。不得意な所の練習ができた。おもしろかった。
		自分の考えた通りの練習を一生懸命できてよかった。みんなががんばりなくなっていたので楽しかった。自分のプレーにみがきをかけたのでいいと思う。3年生は、高度なのでためになった。
		バスやドリブル全て最高でした。そのなかで、チーム練習はやるにつれじょうずになりました。黄金の左をくらってふっとんだけれど、とても楽しい練習ができました。
	女 子	内容を考える時間が少なくて、大変だったと思うけど、自分の考えたことができたので、楽しかった。多分、決められたことを強制的にやるよりもやる気が出て楽しかった。
		とても楽しかったです。自分たちになりたくないものがわかったからいい。弱点のところを何回も練習できてよかった。
		チームにまとまりがなかったためかあまりうまくいかなかった。でも、みんなが楽しく練習できたと思います。それと、うまくいっても、いかなくても自分たちで考えた練習をするということはとてもよいことだと思いました。

否かについては、授業のねらいと関係するところではあるが、ゲームを行うのに最低限必要なルールをピックアップし、資料として配付するなどして、知識を広めたり深めたりすることは大切である。少人数であるがゆえに、ルールの知識が特に必要なレフリーなどの役割をする人的余裕がないこともあるが、プレーヤーとしてルールも理解することによって、積極的にゲームに参加するようになることがある。

ただし、増えた知識は、事前調査と同様に、テレビや家族・友人など、サッカー授業以外の場や人からの習得である可能性も考えられる。そのほかには大きな変化は見られなかった。

(5) 授業の感想

事前調査に付け加える形で設けた項目が「自分たちが

考えた練習を行う授業の感想」欄であり、その結果についてまとめたのが、表10である。

感想はもちろん情意的なものであるが、その中でも「おもしろ、おかしく、楽しくできたし、いろいろなことができるようになった（1年男子）」というように、「楽しさ」に関する記述の頻度が多くなっている。また、「自分たちで考えた練習をする」ことに関する内容もいくつかみられ、生徒自らが考え取り組む運動の学習にも効果があったことが分かった。

したがって、生徒の全体的な感想から、本單元においては、まず学習のきっかけとして「楽しむ」こと、そして取り組む課題や運動のしかたを「自分たち自身で考え、工夫する」ことの2つが達成されたものと考えられる。

11 問題点の工夫・改善

以上の内容を踏まえた上で、第三次学習指導計画を作成するに当たっては、特に以下の内容について工夫・改善を加えながら、計画に盛り組み、より洗練させるとともに、適宜留意しながら実際の指導場面に生かすものとする。

1) 男女共習について

全校体育においては、比較的低学年の女子が消極的になりがちなので、指導者も話し合いに参加したり、シュートを支えるアシストの重要性を理解させたりしながら、一人ひとりのもっている力を伸ばすとともに、その力がチーム全体の力として発揮されるように工夫する。

2) 異学年合同体育

全校体育においては体力差や技能差が大きく表れてくるが、1)と同様な工夫を行いながら、具体的にはチームの特性に応じてポジションや作戦・戦術などを考えたり、話し合ったりすることのできる時間を確保するとともに、学習カードにはそのための欄を設けるなどして改善を図る。

3) 少人数でのメリットを生かす

2年生の授業のように、4名の生徒（5時間目）では「場」自体を設定することが、授業の目標によっては困難な場合も当然あるが、全体的に見て、運動量は確保できるし、ポジションの入れ換えも簡単であり、多くの生徒に目が届く。つまり、ボールに触れる時間や回数が多くなるとともに、「楽しい」と感じるシュートを打つ場面やその確率が高いことになる。

確かに正規ルール1チーム11人編成(11対11)でのゲームはできないが、それよりも取り組む学習や身につける学力の方が重視されるべきである。

4) 課題の提示のしかた

問題解決学習へとスムーズに移行できるように、課題を与える際には、目標に応じた課題を精選し、生徒の実態と課題の難易度を考慮しながら、自主的に取り組むことができるように工夫・改善する。

5) ゲームに生かす練習の工夫

練習の意味についての理解が不十分なため、考えることができなかつたり、ゲームに結びつけられなかつたりするため、理解しやすい学習のしかたを工夫し、それに応じて学習カードを改善する。

6) 学習カードについて

これまでのカードでは、自己評価のみの記入となっていたが、全校体育におけるゲーム時の学習に必要な他者評価欄を設ける。また、自己評価欄は技能的な項目に偏っていたため、問題解決学習を行うのに必要な項目に変更するとともに、変容が分かるように2段階評価から5

段階評価へと改善する。さらに、チームでの話し合いの記録に必要な項目欄を設ける。

7) 屋内体育館でのルール

ケガや事後を未然に防止するため、雨天時に屋内体育館でサッカー授業を行う場合には、筆記用具やごみ箱などを片付けた後、次のルールを確認し、ゲームを行う。

表11 体育館でのルール

1	室内用ボールを使用する
2	ボールを高く蹴り上げない (めやすとしては腰の高さまで)
3	おもいきり蹴らない
4	壁を利用することができる

12 第三次学習指導計画

以上の検討結果から、より洗練された計画として、以下の第三次学習指導計画案の立案・作成を行った(図3・図4参照)。なお、紙幅の関係で細案は割愛している。

13 学習カード

指導計画の改善・工夫にともない、学習カードも図5のように改善を加えた。

まとめ

以上のように、本研究では小規模校における体育授業の充実を目的として、自己教育力の育成をねらいとした学習指導計画について検討を加え、工夫・改善を図ってきた。その結果、2で挙げた「学習指導を工夫することにより、小規模校の実態を生かした自己教育力の育成を図る授業づくりを行うことができる」という仮説を、第二次学習指導計画の実施を踏まえた上で、より洗練された第三次学習指導計画というかたちで検証することができた。今後、この計画を実施するとともに、小規模校における体育授業の一層の充実を探っていきたいと考えている。

引用・参考文献

- 1) 教育課程審議会答申, 1987.
- 2) 文部省, 『中学校指導書保健体育編』, 大日本図書, 1988.
- 3) 文部省, 『指導要録』, 1991.

保健体育科（体育分野）学習指導計画

期間・生徒・場所・授業者（省略）

- 1 単元名 「めざせ！Jリーグ」
- 2 題材について（省略）
- 3 目標
 - 1) 自ら練習を考えサッカーに興味や関心をもつとともに、仲間と協力してゲームを楽しむ態度を身につける
 - 2) 自ら課題を見つけ、課題解決に必要な練習の内容や方法などについて、考えたり工夫したりしながら、主体的に取り組む
 - 3) 練習やゲームを楽しみながら、個人技能や集団的技能を身につける
 - 4) 接近プレーやキックの強さなど、安全や健康に留意しながら、ゲームを楽しむ
- 4 全体の指導計画

全体の指導計画は、学年体育が各学年5時間、全校体育が7時間の合計12時間から構成されている。また、事前調査および事後調査は時数に含まれていない。なお、12時間目は体育授業ではなく生徒会の企画・運営による学校行事であるが、授業との関わりを考慮し、記載している。

 - 1) 学習の内容
 - (1) 今もっている力で練習の内容を考え、意欲的に取り組む（1時間目）
 - (2) 自ら課題を見つけ、練習の内容を工夫し、積極的に取り組む（2～5時間目）
 - (3) 仲間と協力してチームの課題を見つけだし、練習の内容を考え主体的に取り組む（6～11時間目）
 - (4) 生徒会企画・運営によるサッカー大会（12時間目）
 - 2) 学習のながれ

分	10	20	30	40	50	
事前	事前調査（観点別）					
1	学年体育	オリエンテーション	リードアップゲーム	話し合い	考えた練習	ま と め と 次 時 の 予 告
2	〃	考えた練習			工夫した練習	
3	〃	工夫した練習			リードアップゲーム	
4	〃					
5	〃					
6	全校体育	オリエンテーション	話し合い	試しのゲーム	話し合い	
7	〃	工夫した練習	ミニゲーム	話し合い	ミニゲーム	
8	〃					
9	〃	準備	試しのゲーム(前半)	話し合い	試しのゲーム(後半)	
10	〃	工夫した練習	ミニゲーム	話し合い	ミニゲーム	
11	〃					
12	〃	まとめのゲーム(生徒会企画サッカー大会)				
事後	事後調査（自己評価）					

図 3

- 5 評価
 - 1) サッカーに興味や関心をもち、自ら練習を考えたり、仲間と協力してゲームを楽しめたか
 - 2) 自ら課題を見つけ、課題解決に必要な練習の内容や方法などについて主体的に考えたり工夫したりしていたか
 - 3) 練習やゲームを楽しみながら、個人技能や集団的技能を身につけたか
 - 4) 練習やゲームにおいて、接近プレーやキックの強さなど、安全や健康に留意していたか

図 4

5 評価

- 1) サッカーに興味や関心をもち、自ら練習を考えたり、仲間と協力してゲームを楽しめたか
- 2) 自ら課題を見つけ、課題解決に必要な練習の内容や方法などについて主体的に考えたり工夫したりしていたか
- 3) 練習やゲームを楽しみながら、個人技能や集団の技能を身につけたか
- 4) 練習やゲームにおいて、接近プレーやキックの強さなど、安全や健康に留意していたか

図 4

サッカーノート

(6/12)

- 1 みんなで話し合い、チームの名前を決めよう。 チーム名 _____

- 2 今日の「試しのゲーム」を、振り返ってみよう。

1) チームのメンバーやキャプテンは、 このままでよいか？	よい まあまあよい どちらでもない あまりよくない よくない <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
2) 自分のポジションは、このままでよいか？	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
3) パスを出したり、つなげたか？	よくした まあまあした ふつう あまりしなかった ぜんぜん <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
4) これまでに身につけた技能を、発揮したか？	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
4) 協力しながら、プレーしたか？	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
5) 仲間といっしょに、ゲームを楽しめたか？	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>

- 3 「試しのゲーム」でのチームの「成果」と「課題」を、考えてみよう。

よかったところ：	がんばるところ：

- 4 どのように「がんばる」か、その練習方法を考えてみよう。

- 5 今日の授業全体を、振り返ってみよう。

1) 協力しながら意欲的にゲームに取り組めたか？	よくした まあまあした ふつう あまりしなかった ぜんぜん <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
2) 仲間とチームやゲームについて話し合ったか？	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
3) 協力して攻撃や守備をしたか？	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
4) ケガに気をつけ、安全にプレーしたか？	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
5) 練習やゲームを楽しめたか？	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
6) 授業や練習のねらいを理解したか？	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>

氏名 _____

図 5